

# 台風第12号に対する農業技術対策

平成30年7月26日

鳥取県農業気象協議会

鳥取県農林水産部

農業振興戦略監とっとり農業戦略課

台風12号が発生し、本州に上陸する可能性があります。台風の接近による強風・大雨等に対する技術対策を作成しましたので、現場への周知並びに被害防止対策の徹底をお願いします。

## 1 台風第12号に関する情報 第10号

平成30年7月26日04時50分 気象庁予報部発表

(本文)

[台風の現況と予想]

台風第12号は、26日3時には沖ノ鳥島近海にあって、ほとんど停滞しています。中心の気圧は985ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は30メートル、最大瞬間風速は40メートルとなり、暴風域を伴っています。

今後、台風は発達しながら日本の南を北上し、27日午後に小笠原諸島に最も接近する見込みです。台風は、28日に伊豆諸島に接近し、その後29日にかけて本州に接近する見込みです。

[防災事項]

台風の接近に伴い、小笠原諸島では27日午後は猛烈な風が吹き大荒れとなるでしょう。海上は、うねりを伴い大しけとなるでしょう。

小笠原諸島では暴風やうねりを伴った高波に警戒してください。

その後28日には伊豆諸島、29日にかけて本州に接近する見込みです。東日本を中心に暴風や高波、大雨のおそれがあります。また、年間でもっとも潮位が高い時期ですので、高潮のおそれもあります。



URL: <https://www.jma.go.jp/jp/typh/>

\* 今後発表される台風進路予想や注意報など、最新の気象情報を入手し、強風や大雨時には屋外での作業を行わず、「2 農作物の管理」を参考にして対策に留意してください。

## 2 農作物の管理

区分	予想される影響	対策の内容
共通	1 強風による資材等の飛散 2 二次災害の発生（水難事故、土砂災害等）	<b>【事前対策】</b> 1 畜舎、農具舎等の戸締まりを徹底し、飛散しそうな資材は中に入れておく。  <b>【事後対策】</b> 1 ほ場の見回りなどは、安全が確認された後に実施し、人命最優先、二次災害の防止を徹底する。 2 大雨により増水した河川、用水路などに近づかない。 3 豪雨による土砂災害が予想される場合は、傾斜地や溪流沿いの果樹園など、危険な所に立ち入らない。
水稲	<b>【風雨害、塩害】</b> 1 不稔粒の発生 2 海水等の流入による塩害	<b>【事前対策】</b> 1 穂ズレや蒸散防止のため、可能な範囲で深く水を張る。 2 台風の通過と満潮時が重なった場合、海水が用排水路を通して水田に流入する恐れがある所では、樋門等の管理を適切に行う。  <b>【事後対策】</b> 1 冠水や倒伏した水田ではできるだけ早く排水に努める。 2 海水等塩分を含む水が流入した水田では、速やかに排水に努めるとともに、塩分濃度の低い用水を確保し、かけ流しによって塩分除去を行う。
大豆	<b>【浸冠水害】</b> 1 生育抑制	<b>【事前対策】</b> 1 水が流れるように溝や排水口に落ちた泥を取り除き、速やかに排水できるようにしておく。  <b>【事後対策】</b> 1 浸水や冠水したほ場では、直ちに排水する。排水しにくいほ場では、排水口側に新たに畔を切って排水口を増設し、速やかな排水を行う。
野菜	<b>【風害】</b> 1 パイプハウスの破損、倒壊等 2 作物の折損 3 葉ずれ等による病害発生  <b>【浸冠水害】</b> 1 根腐れや草勢低下にともなう病害発生 2 畝の崩壊	<b>【事前対策】</b> 1 パイプハウスの対策については、別紙「パイプハウスの強風被害対策」を参照。 2 倒伏が予想される白ネぎほ場では、土寄せを行い、株元をおさえる。但し、高温期（最低温度20℃以上を目安にする）の土寄せは軟腐病等病害の発生を助長するので、畝の両側にハウスバンド等を張って支えとする（図1）。 <div data-bbox="703 1509 1361 1854" data-label="Image"> </div>

図1 白ネギの強風対策(畝の両側に支柱を打ち、ハウスバンドを強く張る)

区分	予想される影響	対策の内容
野菜 (つづき)		<p>3 スイカ（抑制栽培）等のトンネル栽培では、ハウスバンドを強く締め直すとともに、トンネル内に風が入らないように砂袋等で裾を押さえる。</p> <p>4 アスパラガス等ネットを用いる作物では、支柱を補強するとともに、ネットを強く張る。</p> <p>5 ブロッコリーの定植は、台風の進路等を確認し、場合によっては台風通過後に定植する。また、定植後のブロッコリーは土寄せにより株元に土を入れ、倒伏を防止する。</p> <p>6 停滞水による根傷みを生じないよう排水対策を徹底する。明きょや排水路を整備し、土砂やゴミは取り除き、スムーズな排水を促すようにする。</p> <p>7 砂丘畑で、飛砂による被害の恐れがある場合は、散水を行い飛砂を抑える。</p> <p><b>【事後対策】</b></p> <p>1 台風通過後風が弱り次第、直ちにハウスおよびトンネルの換気を行う。</p> <p>2 浸冠水した場合は、ポンプ等を用いて速やかに排水する。</p> <p>3 水が引いて作業が可能になり次第、倒伏したものを起こすとともに、畝間に追肥を行って軽く中耕培土し、草勢の回復を図る。（但し、高温期は控える）</p> <p>4 損傷や草勢低下による病害の発生を防ぐため殺菌剤を散布するとともに、必要に応じて葉面散布剤を加用し、草勢の回復を図る。</p> <p>5 被害がひどく回復の見込みのない場合は、植え替えたり代替野菜を作付ける。</p>
花き	<p><b>【風害】</b></p> <p>1 パイプハウスの破損、倒壊等</p> <p>2 すれ傷、曲がり等による品質低下</p> <p><b>【浸冠水害】</b></p> <p>1 土壌の急激な水分変化による根ぐされ</p> <p>2 草勢低下にともなう病害発生</p> <p>3 豪雨による土砂等の施設内流入</p>	<p><b>【事前対策】</b></p> <p>1 パイプハウスの対策については、別紙「パイプハウスの強風被害対策」を参照。</p> <p>2 露地栽培の作目は、支柱の点検・補強を行ったうえでフラワーネットを緩みのないよう張り、風害に備える。</p> <p>3 切り前に近づいた花は出来るだけ収穫する。</p> <p>4 施設内に収容していない資材は、強風による飛散がないよう固定する。</p> <p>5 停滞水による根傷みを生じないよう排水対策を徹底する。明きょや排水路を整備し、土砂やゴミは取り除き、スムーズな排水を促すようにする。</p> <p>6 冠水に備えてポンプ等による強制排水の準備をしておく。</p> <p><b>【事後対策】</b></p> <p>1 台風通過後風が弱り次第、直ちにハウスおよびトンネルの換気を行う。</p> <p>2 浸冠水した場合は、ポンプ等を用いて速やかに排水する。</p> <p>3 損傷や草勢低下による病害の発生を防ぐため殺菌剤を散布するとともに、必要に応じて葉面散布剤を加用し、草勢の回復を図る。</p> <p>4 風により倒伏した切り花類は直ちに引き起こし、曲がりによる品質低下を抑制する。</p>

区分	予想される影響	対策の内容
果樹	<p>【風害】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 果実の落下</li> <li>2 枝折れ</li> <li>3 苗木、わい性りんごの倒伏</li> <li>4 ハウス等施設の損壊</li> <li>5 潮風害による葉やけ、落葉</li> <li>6 葉の損傷による病害発生</li> </ol> <p>【浸冠水害】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 根傷み</li> </ol>	<p>【事前対策】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 防風網や竹垣の補強をしておく。網掛け園では、網やロープを点検し、傷んだ部分を補修する。</li> <li>2 果樹棚があおられて波打たないように、中柱で補強する(図2)。また、棚線をナシの主幹部等に固定したり(成木園)、らせんアンカーを10a当たり10~20箇所程度埋め込み、棚面とアンカーを番線やロープで結び、棚面の上下動を抑制する(図4)。さらに、落下防止のため、結果枝を棚線へ結び直しする。</li> </ol> <div data-bbox="459 510 957 1321"> </div> <p>図2 中柱の追加方法</p> <p>幹線の交わるところに中柱を入れ、棚が下がることを防ぐ。</p> <p>柱の脇にアンカーを打って番線で棚線を引き下げ、棚の浮き上がりを防ぐ。</p> <p>らせんアンカーは短いパイプ等をハンドルにして簡単に打ちめる。</p> <div data-bbox="651 1339 1268 1803"> </div> <p>図2 棚の上下動による落下を防止する方法</p> <p>図3 棚の上下動による果実の落下を防止する方法</p>

区分	予想される影響	対策の内容
果樹 (つづき)		<p><b>表1 果樹の落下防止剤の使用法</b></p> <p>○ストップボール液剤の使用時期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りんご：収穫開始予定日の25～7日前(1000～1500倍) 2回散布する場合は間隔を10日程度あける</li> <li>・なし(青なし)：収穫開始予定日の14～7日前(1500～2000倍)</li> <li>・なし(王秋以外の赤なし)：収穫開始予定日の14～7日前(2000～3000倍)</li> <li>・なし(王秋)：収穫開始予定日の30～7日前(2000～3000倍)</li> </ul> <p>○マデックの使用時期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リンゴ：収穫開始予定日の25日前及び15日前(2回散布)(6000倍)</li> <li>・日本なし：収穫開始予定日の14日前(6000倍)</li> </ul> <p>○ヒオモン水溶剤の使用時期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・りんご、なし：収穫開始予定日の21～4日前(2回以内)(1000～2000倍)</li> </ul> <p>3 風当たりの強い園では、落果防止剤を散布する(ストップボール液剤、マデック、ヒオモン水溶剤がある。使用時期(表1)に注意する)。</p> <p>4 苗木やわい性りんごは根域が浅くて倒伏しやすいので、支柱にしっかり固定する。</p> <p>5 幼木や若木の主枝先端が折れないように、支柱を添えて固定する。</p> <p>6 育成中のジョイント苗は、しっかりと支柱に固定する(支柱が折れると、苗も一緒に折れるので、弱い支柱は補強する)。必要な長さまで伸びている苗は棚面に倒しておく。</p> <p>7 収穫の始まっている品種については、可能な限り収穫する(収穫の目安については、各生産組合の方針に従う)。</p> <p>8 雨に備えて、排水溝を補修・清掃し、雨水がスムーズに園外排出できるようにする。</p> <p>9 傾斜園の法面が水で掘れているような部分は、土嚢で補強しておく。また、土砂崩れの恐れがある場所は、ビニールシート等で覆っておく。</p> <p>10 被覆中のブドウハウスは、完全に密閉し、ハウスバンドによる固定を徹底する。収穫が終わったハウスはビニールを巻き上げたり除去するなどして、強風による施設被害を回避する。傷んだパイプは補強する。</p> <p><b>【事後対策】</b></p> <p>1 沿岸部の園で樹体が潮風を浴びた場合は著しい落葉が発生するので、台風通過後、危険が去り次第できるだけ速やかに散水して除塩する。</p> <p>2 降雨の滞水がある場合は、溝を切って速やかに排水する。</p> <p>3 枝折れ等の損傷がある場合は、速やかに枝を戻し、ビニールやテープで傷を保護する。折れ方が激しい場合は枝を切り落として、切り口に癒合剤を塗布する</p> <p>4 法面が崩れたり、水路が土砂で埋まったりした場合は、速やかに補修する。</p> <p>5 防風網、防風垣、網掛け施設に被害が出た場合は、速やかに補修する。</p>

区分	予想される影響	対策の内容
飼料作物	<p>【風害】</p> <p>1 長大作物の倒伏</p> <p>【浸水害】</p> <p>1 根腐れ</p>	<p>【事前対策】</p> <p>1 降雨及び停滞水による湿害を防ぐため、ほ場の外周に額縁明きよを設置する。</p> <p>【事後対策】</p> <p>1 作付地が浸水した場合は排水路側の畦を切る等排水に努める。</p>
家畜管理	<p>【風害】</p> <p>1 畜舎等施設の損壊</p> <p>【浸冠水害】</p> <p>1 飼料の変質、腐敗</p>	<p>【事前対策】</p> <p>1 雨や風雨による畜舎内への雨水の浸入を防止するため、屋根等の点検・補修を行う。ただし、風が強まったら、事故を避けるため作業を中止する。</p> <p>2 畜舎周辺の排水路からの水進入を防止するため、排水路の清掃等に努める。</p> <p>3 ほ場の堆肥盤に堆肥が積んである場合、堆肥が流出しないように努める。</p> <p>4 ラップサイレージをほ場に保存している場合は、牛舎敷地内の排水の良い場所に移動しておく。</p> <p>5 湿度が高く温度上昇が懸念されるため、畜舎内の換気と家畜への送風に努め暑熱ストレスの軽減を図る。</p> <p>6 敷き料は乾燥したオガクズ等を用いる。</p> <p>7 停電に備え、発電機等予備電源の準備・点検を行う。</p> <p>【事後対策】</p> <p>1 排水に努めるとともに、浸水した畜舎は消毒する。</p> <p>2 土砂及び雨水が混入した飼料は、変質、腐敗が生じるので、給与は行わない。</p>